

## 壁紙施工要領書

### - スポンジエース FP -

#### ■ 特長

---

- ・ スポンジエースFPは壁紙表面にフィルムをラミネート加工し、汚れの浸透を防いで拭き取りやすくした掲示板用壁紙です。
- ・ 一般のビニル壁紙にくらべ、やや硬い傾向があります。そのためカールの発生や、寒冷時には出入隅部などの納まりが悪くなることがあります。

#### ■ 下地調整

---

- ・ 施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・ ネジ、釘類には錆止めを施してください。施工後の錆による変色を防ぎます。
- ・ 下地と同色の樹脂入りパテを使用するようにしてください。強度の弱いパテはハガレの原因となります。
- ・ 湿式工法による下地（コンクリート、モルタルなど）や、パテ・シーラーを施した場所は十分に乾燥（水分率11%以下）していることを確認してください。未乾燥状態での施工は壁紙の変色やカビの発生を招くことがあります。
- ・ ケイカル板、粉ふき下地、ペンキ下地、化粧板、パーテーション等、接着性の悪い下地は必ず下地別のシーラーを塗布してください。シーラーは下地を補強し壁紙のハガレや目開きを防ぎます。
- ・ コンクリート・モルタル下地、ベニヤ・合板下地、金属下地でも、必ず下地別のシーラーを塗布してください。壁紙と下地の間に皮膜を形成し、下地からのアクによる壁紙の変色を防ぎます。

#### ■ 接着剤

---

- ・ 接着剤は、でん粉系のものを使用し、希釈タイプ使用の場合は、糊：水＝10：7を目安にしてください。
- ・ 冬期、特に寒冷地では、エチレン酢ビ系ボンドを10～20%程度混合してください。
- ・ 接着剤塗布後はタタミジワが付かないよう大きいたたみ、湾曲部を強く押さえないようにし、上積みは避けてください。

## ■養生・オープンタイム

---

- ・接着剤塗布後は、うませ時間を20～30分程度とって作業を進めてください。低温時にはもう少し長めにとってください。あと伸びによるフクレ防止になります。

## ■張り付け・ジョイント

---

- ・通常の塩ビ壁紙に比べてややカール癖がつきやすい傾向があります。特に芯に近い部分や寒冷地では材料を逆巻きにする等、カール癖を取ってから施工するようにしてください。
- ・なかなかカール癖が取れない場合は、ジョイント部分にエチレン酢ビ系ボンドを原液で捨て糊する等の処置を施してください。
- ・吸水性の低い下地（シーラー塗布面、化粧板、金属板、コンクリート等）に施工する場合は繰り返し何度もエア抜きを行ってください。接着剤の水分を下地が吸収しにくいために、あと伸びによるフクレが発生することがあります。
- ・石膏ボード下地等で重ね裁ち（ダブルカット）を行う場合は、下地まで切り込まないようにしてください。目開きの原因となります。（壁紙と下地の間に下敷きを入れる、和紙テープを張り込む、といった注意が重ね裁ちの場合は必要です。）
- ・ローラー掛けは、あまり強く押し付けたり片側だけに力をかけ過ぎないでください。癖が残ったり傷や光沢の原因になります。
- ・なで付け、エア抜きの際に力を入れて横なでをすると乾燥後目開きの原因になります。
- ・低温時には室内を暖めてください。フクレ等の回避に役立ちます。
- ・壁紙の表面に接着剤がつかないようにご配慮ください。変色の原因になります。

## ■コーナー材の使用について

---

- ・コーナー材を使用する場合は、穴あきタイプをご使用ください。穴あきタイプ以外のもを使用すると、接着剤の水分蒸発がほとんどなく壁紙が浮いたりかび発生の原因になります。

## ■施工後

---

- ・施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。特に、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目開き、はがれの原因になります。
- ・壁紙表面に接着剤等が付着した場合は、直ちにきれいな水で拭き取ってください。拭き取りが不十分な場合、変色等の原因になります。